

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 18 日 10:21AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 49,500～70,000 円
(TOPIX) 3400～4200

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～54,700 ドル
(S&P500) 6300～7800

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～30,650
(ナスダック総合) 20,700～27,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～161.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～102.720

エリオット波動とは

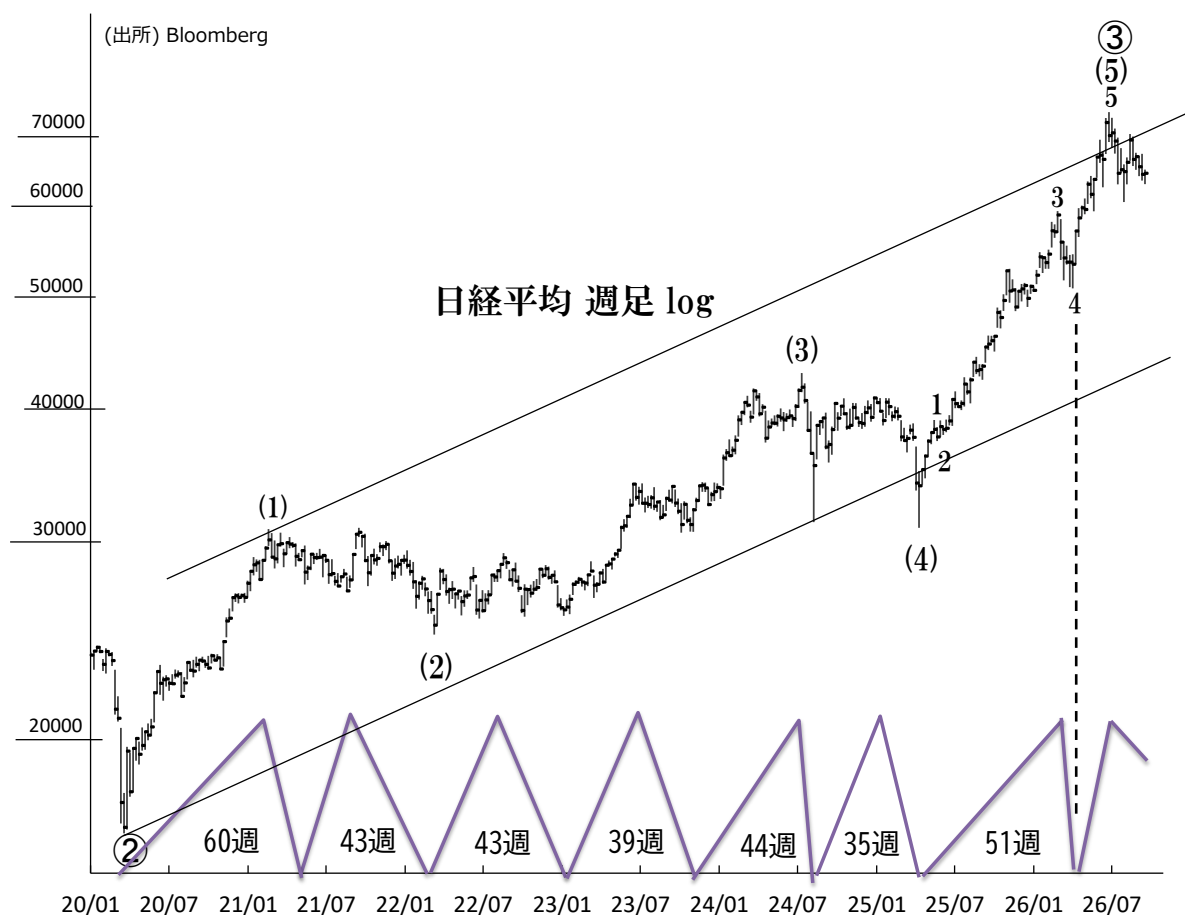
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中とみています。

3 月末(50,558 円)から始まった現行週次サイクルは、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きいでしょう(上昇期間よりも下げ期間が長くなります)。

現行サイクルの上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)の長さでした。サイクル全体が 37 週～53 週(※1)ということから、6 月 22 日(サイクルトップ)からの通算下げ期間は、24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。

換言すると、日経平均は今年 11 月～来年 3 月まで下値模索の展開が続くと予想されます。

「レフト・トランスレーション」のパターンでは、サイクル終点の安値がサイクル始点安値を通常は下回ります。つまり、少なくとも 50,558 円を下回るまで(※2)現行週次サイクルは終わらないでしょう。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。

(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満であると仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。



[TOPIX]

日経平均のプライマリー③波のピークは6月22日ですが、そこからTOPIXはおおよそ2カ月遅れ、8月14日に4220でピークを付けました(未確認による天井)。

8月天井からプライマリー④波による調整が始まったとみられます。その調整規模は、プライマリー第②波(2018年1月～20年3月)の下げ率(37.2%)と同等か、それ以上の大きさになると思われます。

8月高値から足元までの波形は「One-two, one-two」のようです。この見方によると、マル iii 波における第 iii 波の強い下げが遠からずスタートし、3880(8/3 安値)を早々に打診することでしょう。

あるいは、マル ii 波が「フラット」を形成中と見做すことも可能です。この場合は、短期的な上値試しの動きの後にマル iii 波の下落スタートとなります。

なお 3967(9/11 安値)を下回る動きが、弱基調再開の合図になります。



[日経平均・120分足]

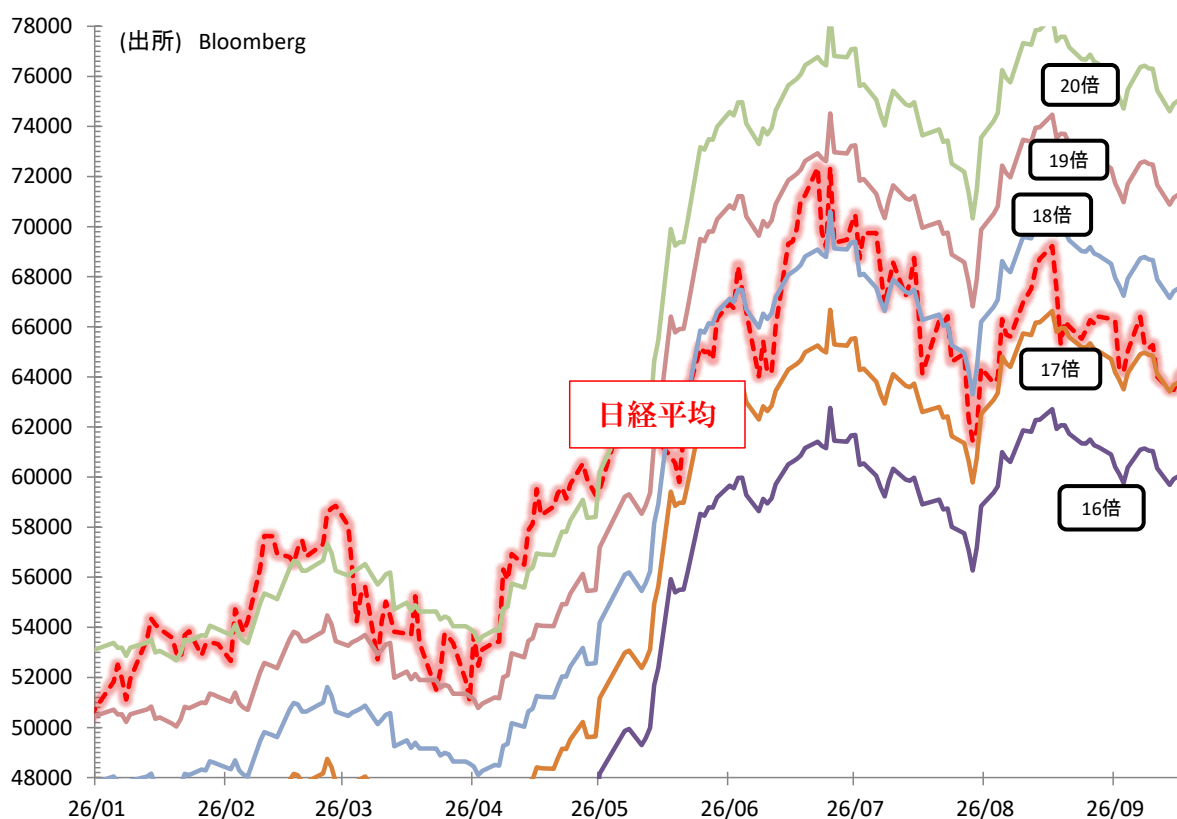
69,608 円(8/14 高値)からマル iii 波の下落が進行中とみられます。マル iii 波は、60,448 円(7/29 安値)を明確に下回る強い下げ波動となります。

66,791 円からマル iii 波の第(iii)波による下落トレンドが進行中です。さらに 62,726 円(9/14 安値)からは、(iii)– ii 波の戻りとみられ、まもなく(iii)– iii 波による急落が想定されます。

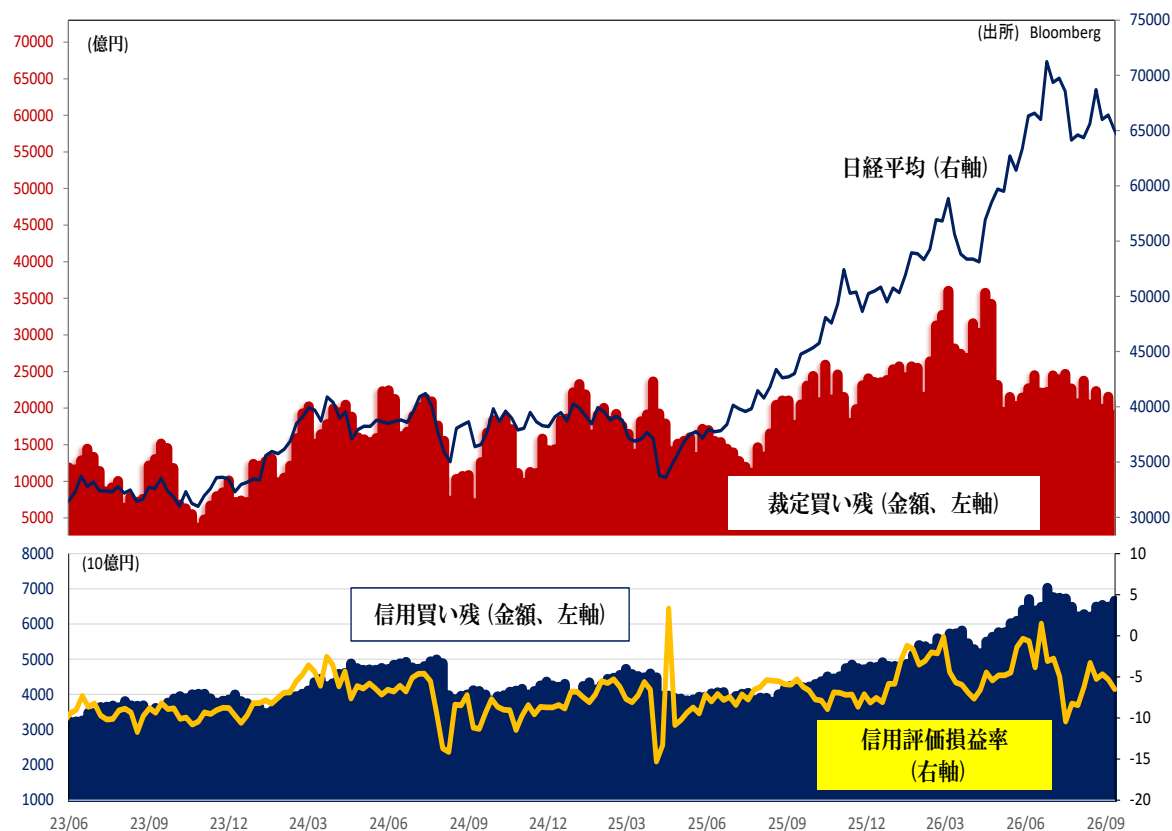
マル iii 波の長さは通常、マル i 波の等倍–1.618 倍になります。これによると、マル iii 波の想定下値レンジとして[59,481 円–53,222 円]が導かれます。

[予想 PER 別の日経平均水準]

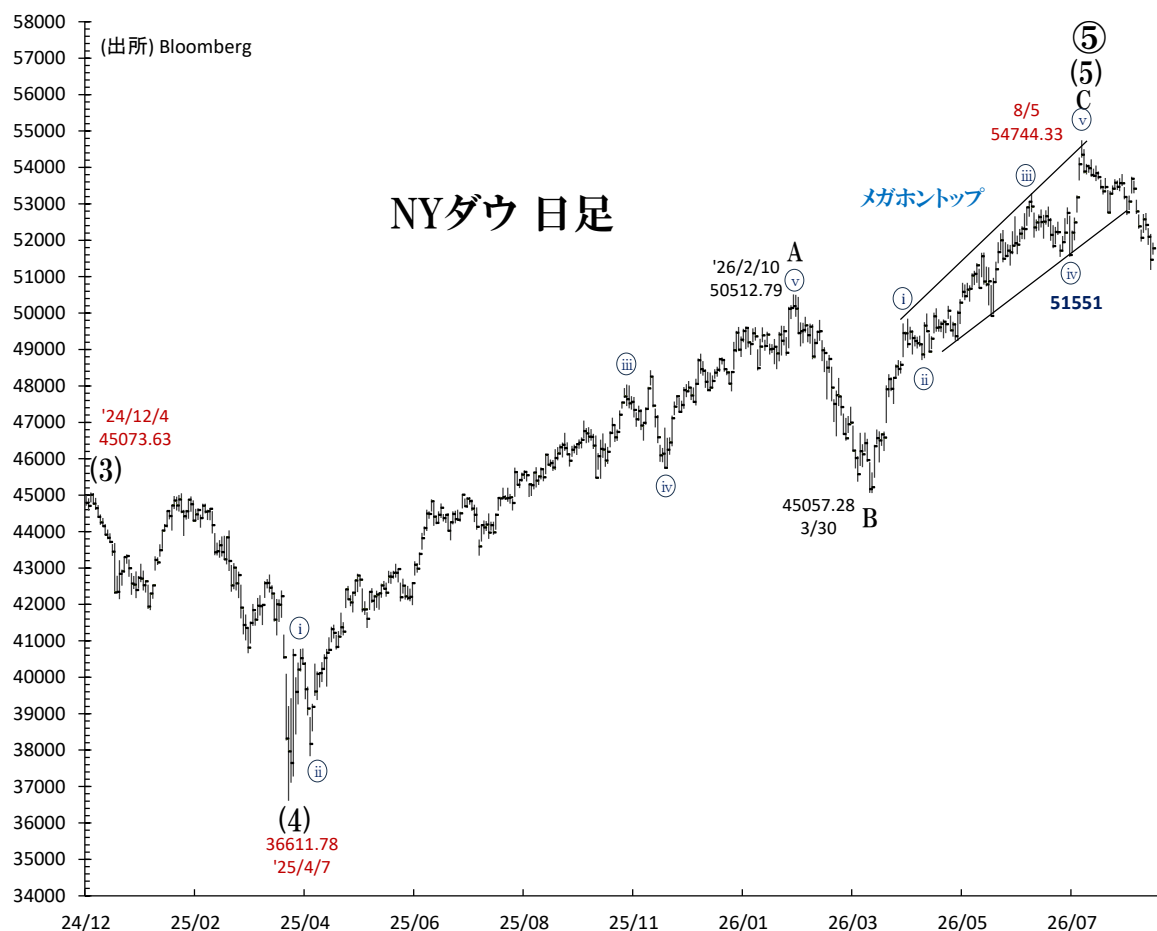
9 月 17 日の日経平均予想 PER は 17.16 倍、予想 EPS は 3737 円。過去最高の予想 EPS は 3922 円(6/25)です。



[裁定買い残と信用買い残] (9月11日時点)



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数は6月1日に、ナスダック100は6月3日に、各々ザラバの最高値を記録しました。やや遅れて6月22日にはSOX指数が最高値を付け、7月末にかけて一時28%下落しました。

ダウ運輸株が最高値を記録したのは4月22日のことで、ダウ30は8月5日、S&P500は8月13日に各々、最高値を記録しています。これら指数の高値時期が異なる「未確認」パターンは、米株全体が天井圏にあることを示唆しています。

NYダウは4月下旬からの「メガホントップ」の天井パターンから下放れています。9月16日には一時51,186ドルと、3カ月ぶり安値を付けました。

フィボナッチの節目・51,046ドル(3月安値からの上昇の38.2%押し水準)に接近したことから、短期的には戻りを試しやすいと思われます。

もっとも基調は下落に転じており、近いうちに49,900ドル(3月安値からの上昇の半値押し)を試すでしょう。なお5万ドル水準には200日MAも控えます。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

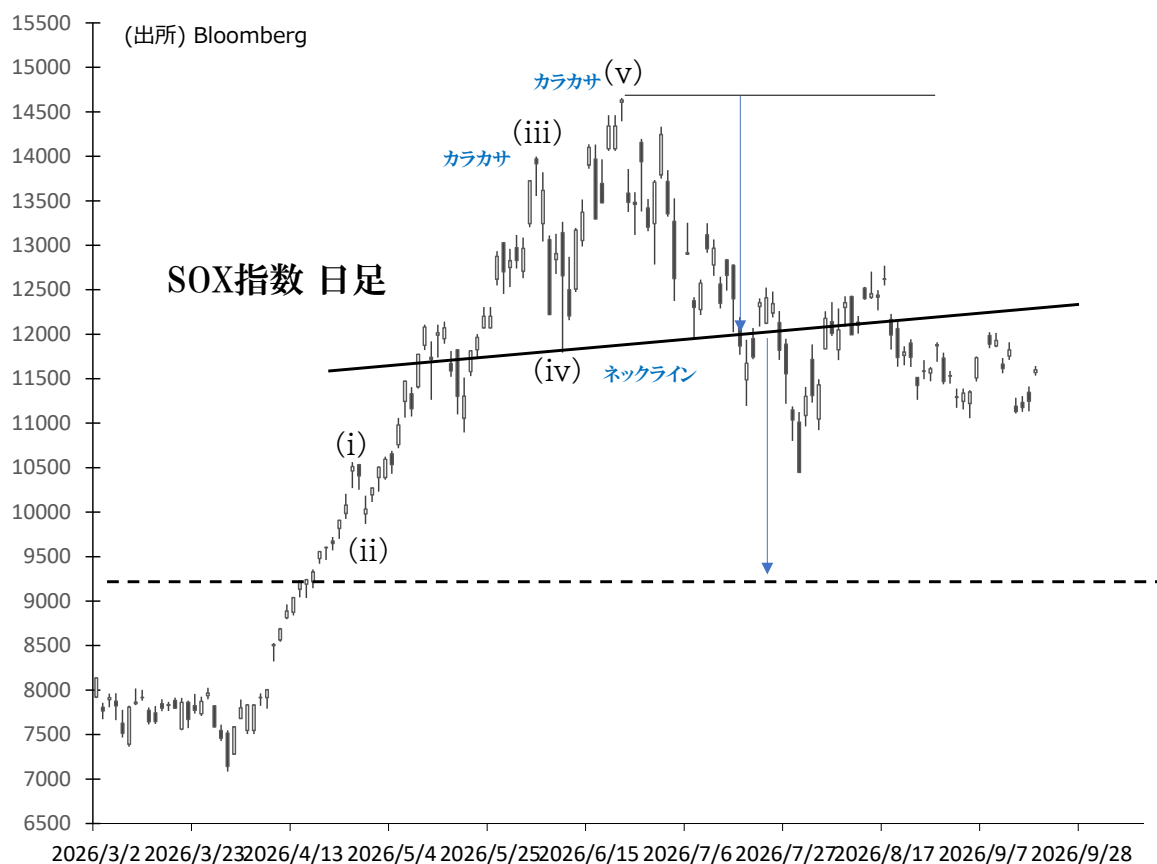
7816(8/13 高値)を以て、25 年 4 月安値(4835)以来の一連の 5 波動構成は、すべて完了したとみられます。この見方通りなら、今後の下落リスクは—おそらく一般に思われている以上に—高いでしょう。

9 月 16 日は一時 7507 まで下げましたが反発。100 日 MA によってサポートされた格好です。

足元リバウンドを経て、次はレツサーディグリー第 4 波安値の 7313(7/29 安値)を目指す、下押しの動きとなりそうです。

SOX 指数

下落リスクが高いとみています。9 月～10 月に 9000-9500 へ下振れる可能性があります。



Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

マグ 7 は 5 月 14 日に最高値を付けており、他の主要指数に先行して高値を付けました。これは重要な天井パターン(未確認)です。

直近高値は 5 月の高値に近く、このまま「ダブル・トップ」を形成する可能性があります。

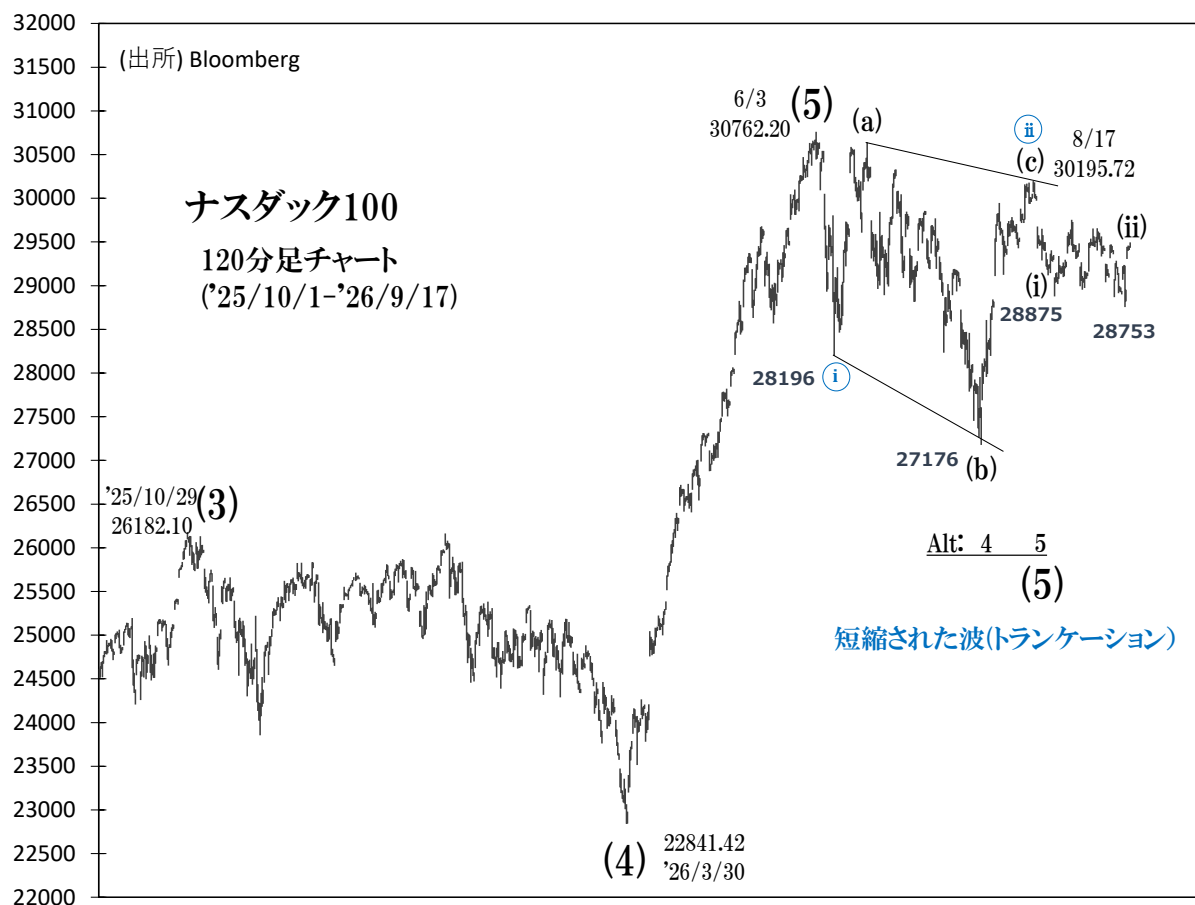
7 月下旬からの上昇ウェッジは、上昇から反落への急転が近いことを示唆しています。

オルタナティブ・カウント

6 月下旬からの上昇第 5 波は、天井パターンの「ダイアゴナル」を形成しています。パターン下限を下回ると、調整入りが示唆されます。



ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

28,196(6/9 安値)からのマル ii 波(ランニング・フラット)は、30,195(8/17 高値)で終わったと思われます。そこからのマル iii 波による下落は、今後 27,176(7/30 安値)を大きく下回る、強い下降波になるでしょう。

28,875(8/24 安値)からは、マル iii 波中第(ii)波の戻り局面(フラット)が展開中の模様です。28,753 を割ると、弱基調入りの可能性が高まります。

なお、以下の代替カウントも現行カウントと同列に捉えています。

(オルタナティブカウント、Alt)

27,176 からの第 5 波による上昇は、30,195(8/17 高値)を以て完了したとみられます。

第 5 波は 6 月高値を上回ることができない、トランケーション[truncation/切り捨て、短縮]です。

(※)旧呼称は「フェイラー、失敗」

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1ドル=140 円台前半です。日本円は 1 年以上も、金利差からの妥当な水準より、極端に過小評価された状態に置かれてきました。

また、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1ドル=97 円～103 円です。長期的にも日本円は著しい過小評価が続いています。

163.944 円(7/23)を以て通算 5 年間の円安①波[ウェッジ]は完了した、とみられます。ウェッジ内の副次波は、次のように相互に美しい比率を示しています。

(C)波の長さ÷(A)波の長さ=0.703、(E)波の長さ÷(C)波の長さ=0.703

この先は数年間にわたる円高になるでしょう。上記のように、長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

7 月末の日米協調円買い介入は、円安の限界水準(160 円台前半)を明示しており、もはや積極的な円売りの動機は失われたといえます。今後は次第に円高傾向が強まっていくでしょう。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。



【日足 エリオット波動分析】

チャート上は暫定的に、152.854 円(9/8)を第 3 波のマル i 波終点とカウントしています。これによると、足元はマル ii 波によるリバウンドとみられます。マル ii 波を完成すると、次に第 3 波中マル iii 波(サード・オブ・サード)による、強いドル安・円高波動が到来することになります。

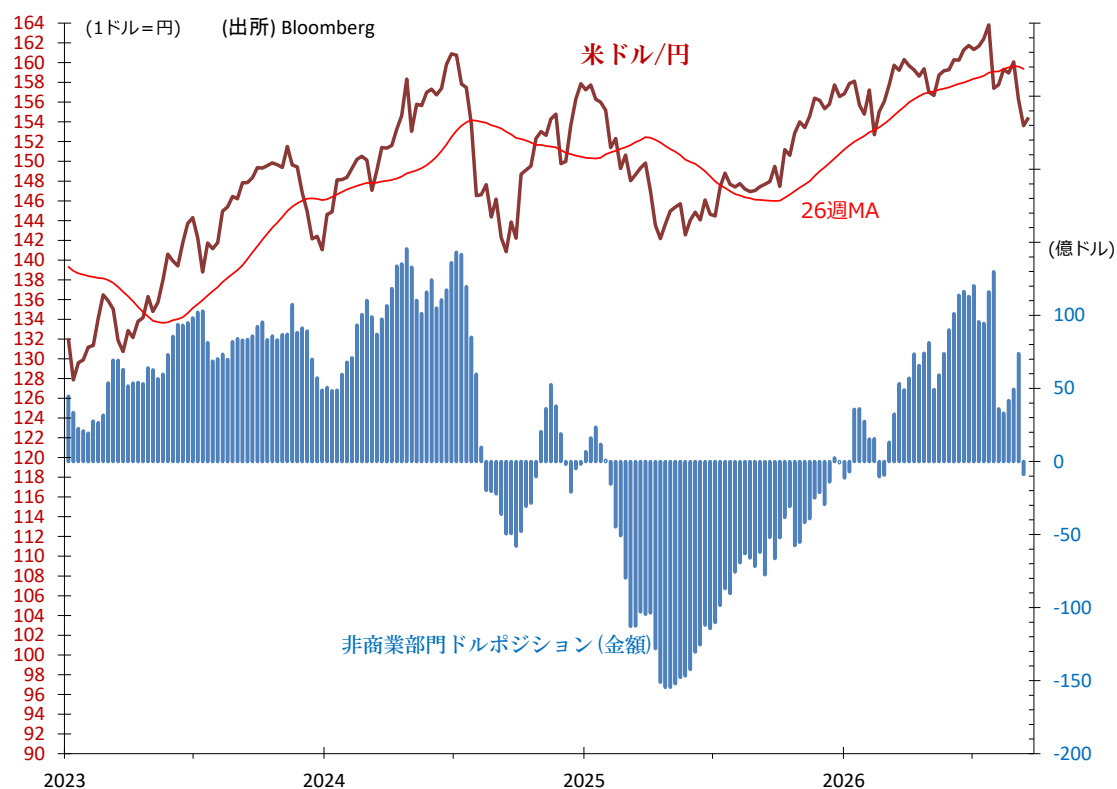
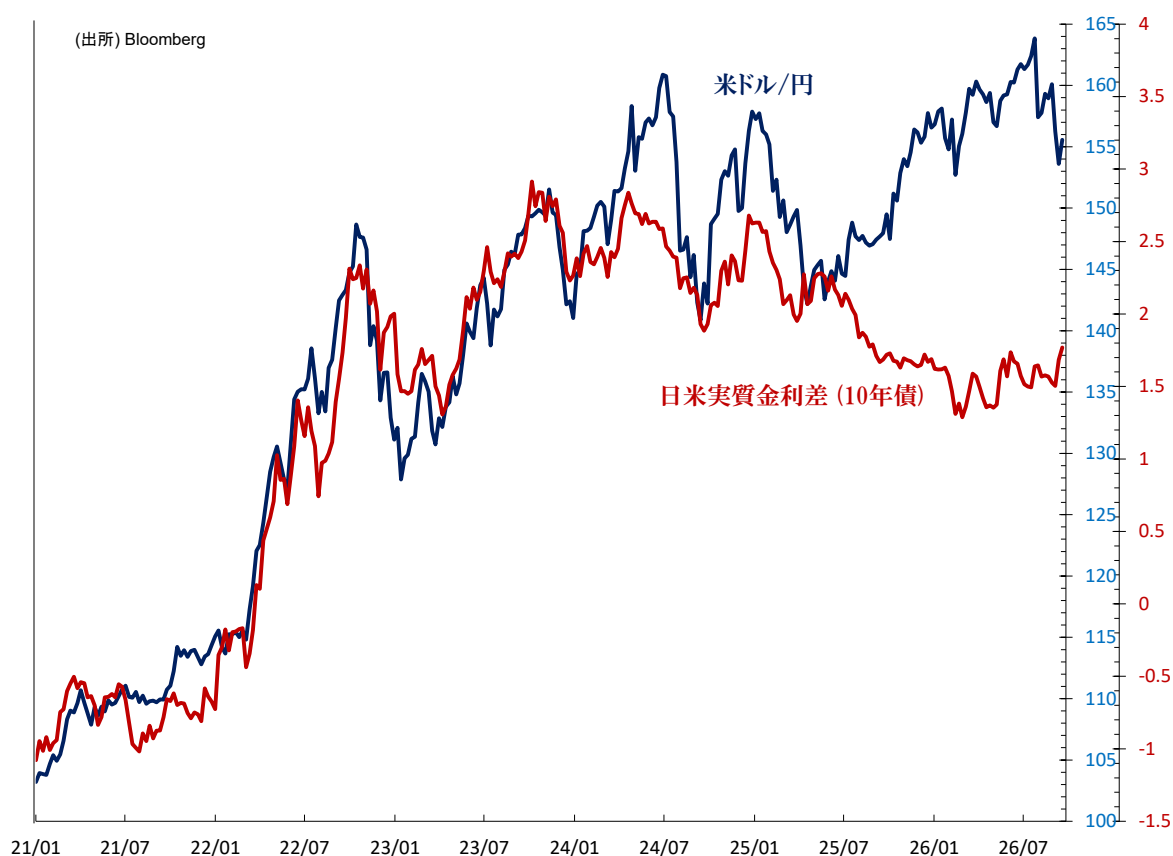
遠からず 152 円処が試されるでしょう。152 円処は、25 年 4 月(139.577 円)からのドル/円上昇の半値戻り[151.910 円]に相当する上、今年 1 月 27 日の安値 151.994 円でもあります。また、7 月高値からの計算値[151.557 円]にも近いものです。

心理的節目の 150 円も視野に入り、その直下には 61.8%戻り水準[149.070 円]が控えています。もっとも 150 円処は、一時的なサポートに過ぎないでしょう。

ヘッド・アンド・ショルダーズからの垂直計算に基づくターゲットは「145 円-146 円」です。このターゲットに達する時期として、9 月下旬～10 月末を注目しています。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[143.706 円]です。



円が 26 年 2 月以来の買い持ちに (2026 年 9 月 8 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円持ち高は、前週の 73.8 億ドルの売り持ちから、8.8 億ドルの買い持ちに転じました。買い持ちになるのは 26 年 2 月以来です。

スイスフランがキャリートレードの調達通貨に

今日(9/18)の日銀決定会合では、6月に続いての利上げが見込まれています。

一方、スイスの政策金利は0%である上に、スイス国立銀行(SNB)はさらなる利下げの可能性を示唆しており、スイスフランは調達通貨(売る通貨)として大いに注目を集めています。

スイスフラン/円のチャートを見ると、今まさに過去数年間のサポートラインを試しています。

示していませんが、例えばユーロ/スイスフランは長年の上値抵抗線を7月にブレイクし、ユーロ高・スイスフラン安にトレンドが明確に転換しています。

このことから、スイスフラン/円のサポートライン割れは時間の問題と思われます。

日本円は既に調達通貨としての役割を終え、その逆の投資対象通貨(買い手側)に、立ち位置が変わり始めたといえそうです。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

今年 1 月安値からの㊸波-(X)波による戻りは 101.800(6/24)で完成し、持続的なドル安トレンドが進行中と思われます。

今年 8 月には 7 カ月間にわたるサポートラインを明確に下回りました。足元は大きく反発していますが（マル ii 波）、旧サポートラインが強いレジスタンスとして働くでしょう。

99.863 を割ると、マル ii 波終了の最初の合図となります。

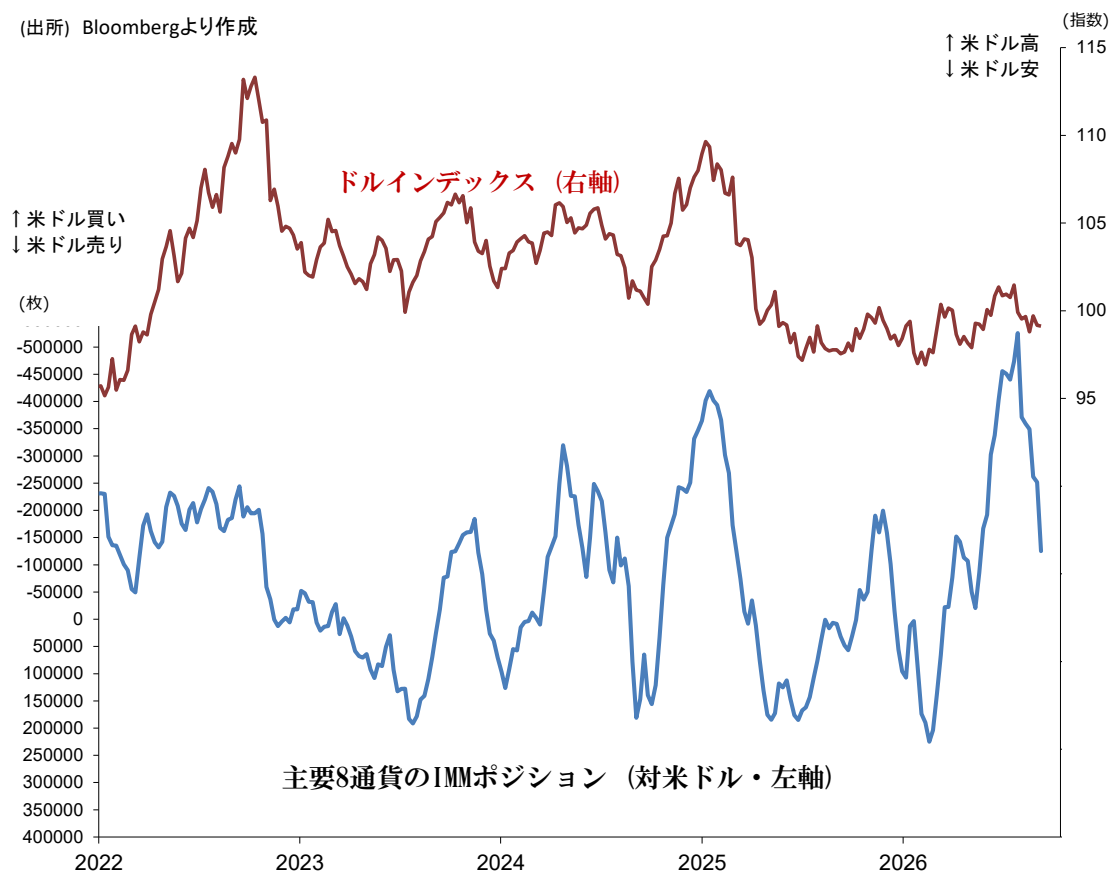
遠からず、マル iii 波によるドル安が始まるでしょう。マル iii 波は、まずは 97.625(5/6)を試すでしょう。

投機筋のドル合成ポジション買い持ち高は 6 週連続で縮小(2026 年 9 月 8 日時点)

投機筋によるドル合成ポジション買い持ち枚数は、12 万 5046 枚と、前週の 25 万 1926 枚から大きく縮小しました。縮小は 5 週連続です。



(出所) Bloombergより作成



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
